

## 岩手県第 6 7 回原状回復対策協議会資料

資料 2 第 4 回ワーキングでの主な意見など

参考 2 これまでの取組みと課題等について〔抜粋〕

## 第4回ワーキングでの主な意見など

- 第4回WGでは、昨年度末にとりまとめた「これまでの取組みと課題等について」の今後検討すべき事項として掲げられた4つの項目について、さらに検討を進めていく上で、どのような具体的な活動が考えられる、考えていくか、というようなことについて、意見、議論を交わした。

### 1 学習施設

- (1) ワーキング・グループのメンバーからは、「現場」に設置してはどうかとの意見と、「まち場」に設置してはどうかとの意見が出されたが、概ねの意見としては、「まち場」に拠点機能を置き、「現場」に足を運ぶという方向で具体的に検討をしていく。「まち場」の適地を検討していく方向となった。
- (2) 学習施設に、どのような機能、例えば、パネルなのか、パソコンデータを自由に閲覧できるようにするとか、具体のあり様については、「どこを適地として学習施設（学習の場）を設けるのか」ということもあるので、今後さらに検討していくこととなった。
- (3) なお、学習施設を絡めた地域経済の活性化策に資するアイデア（T シャツ販売、宿泊施設の活用）につながるような観点も必要との意見もあった。

### 2 跡地利用策

- (1) 主な意見から、継続検討が必要な意見を4つにさらに仕分けし、仕分けしたテーマごとにWGメンバーを張り付け、実現に向けて解決すべき課題をそれぞれ検討し、次のWGに発表して、さらに実現の可能性について検討することとした。

#### グループ分けについて

グループ名	主な意見
森林再生	森林／ブナの森などの自然公園にする。
	漆の植林／二戸地域は漆の産地なので、気候的に現場に漆が植えられる状況であれば、ブナに並んで漆を植えることも考えられる。
花畑	一面の花畑／菜の花、芝桜、ひまわり、綿花などを植える。
イベント	イベントの実施／ロックフェスティバルなどを開催する。
エネルギー	エネルギー利用／風力発電や太陽光発電に使う。（空地は花畑など市民が利用するとの併用案もあり。）植栽を菜の花とし、BDFをつくる。

- (2) 現場を再生したときに、どのような人が集まる交流の場となるにせよ、現場がどのように再生したかというメッセージを記すことが必要と思う。
- (3) なお、跡地利用は、16ヘクタールという広大な面積を一様の利用策で考えていくことはせずに、エリアを設け、エリアごとにテーマを持って利用策を考えていくということも、検討に当たって考慮すべきこととされた。

### 3 二戸市民(特に次世代を担う若者層)の意見集約、掘り起しについて

- (1) 跡地利用策の実現に向けて解決すべき課題の検討と並行して、(住民が主体的に跡

地利用に関わるようにするための) 意見集約、掘り起し方法を考えていくこととした。

(2) 現時点で考えられるツールは、次のとおり。

- ・ コミュニティ FM での呼びかけ
- ・ 行政とは独立した、市民セクターのツイッターによる情報、意見等の拡散 など
- ・ 二戸市が行う生涯学習メニューに「県境産廃事案」を組み込む。
- ・ 市民向け現場視察会などに地元中高生等を優先的に招き、意識喚起とともに意見を聴いていく。

#### 4 関連事業

二戸市では、昨年度に引き続き、フォーラムの開催等を検討しているため、WGとしても市の取り組みと上手く歩調を合わせていきたい。と考えている。

#### ◇ 第4回WGの開催状況

- ① 開催年月日 平成28年5月19日(木)
- ② 開催場所 二戸地区合同庁舎1階 地域交流ルーム
- ③ WGグループ員(五十音順)

氏名	所属等	出席	備考
工藤 正壽	二戸市市民生活部生活環境課長	○	
下舘 光弘	浄安森林組合 参事	○	
生内 雄二	二戸市商工会 副会長	○	
戸舘 一宏	金田一川流域の自然を守る会 副会長	×	
中田 勇司	特定非営利活動法人カシオペア市民情報ネットワーク 副理事長	○	
橋本 良二	放送大学岩手学習センター 所長	○	リーダー
森川 則子	カシオペア環境研究会 顧問	○	サブリーダー

これまでの取組みと課題等について  
〔抜粋〕

平成 28 年 2 月

県境不法投棄事案の教訓を  
後世に伝えるための検討ワーキング

# 1 取組みの趣旨

青森・岩手県境不法投棄事案については、原状回復のため、県による行政代執行が行われています。本来、原状回復は不法投棄を行った原因者が行うべきものですが、資力がないため県が代わって行っています。

「青森・岩手県境不法投棄現場の原状回復対策協議会（委員長 齋藤徳美 岩手大学名誉教授）」（以下「協議会」という。）では、その不法投棄廃棄物の撤去や汚染土壌対策等について協議し、平成 29 年度の原状回復完了に向けて県が事業を進めていますが、これまでに長い期間と多額の経費を要しています。

一方、原状回復事業を進める中で、廃棄物の撤去や汚染土壌の浄化に関する技術的な知見が得られています。また、事案の発生を契機に住民の環境に対する関心が高まり、不法投棄の問題だけでなく自然や環境保全に係る住民活動も活発に行われています。

このような事案の発生や対応の経緯、原状回復で得られた知見や住民の取組みについて、私たちは大切な教訓として今後の環境保全に生かしていく必要があります。

そこで、協議会の下に、「県境不法投棄事案の教訓を後世に伝えるための検討ワーキンググループ（リーダー 橋本良二 放送大学岩手学習センター所長）」（以下「ワーキング」という。）を平成 26 年末に設置し、不法投棄事案の再発防止や地域の優れた環境を保全するため、原状回復の記録の活用や跡地の環境再生のあり方など、不法投棄事案の教訓を次の世代に伝えるための取組みについて、地域と連携して検討を行ってきました。

本書は、ワーキングにおける検討状況に加え、二戸市の協力を得て平成 28 年 1 月 30 日に開催された「県境不法投棄事案の教訓と跡地利活用を考えるフォーラム」（以下「フォーラム」という。）において、二戸市民等からいただいた意見を基に取りまとめたものです。

現在、現場の跡地利用については、ワーキングメンバーや二戸市民等から「夢」を語っていただいた内容を記載していますが、引き続きワーキング、市民フォーラム等を通じて、不法投棄事案の教訓を次の世代に伝えるための取組みについて、さらに具体化していきたいと考えています。

## 2 原状回復の記録の保存や活用のあり方について

### (教訓を伝える取組み・アーカイブの作成)

不法投棄事案をきちんと総括して後世に伝えるための施設（学習施設等）を二戸市内に設置し、情報発信を行い、この事案を風化させないことが大切です。

この施設では、二戸市民等が環境教育に利用し、環境問題を考える材料にしていくため、本事案に係る経緯、不法投棄の防止対策、土壌や地下水の浄化技術、対策などについてわかりやすくとりまとめた資料（データベース）が必要です。

ワーキングにおいて次のような意見が出されています。

#### ●ワーキングで出された主な意見

- ・この事案は本当に遺産ともいえるもの。ここでの様々な取組み、技術、いろいろな原状回復で得られた知見、県境保全というものを遺産としてきちっと残すべき。
- ・データベース化を進めて、地元で本事案が風化しないようにしたい。  
データベースはふりがなを振るなど、わかりやすいものにしてほしい。  
なぜ、このような事案が発生したのか、防止対策は何か示してほしい。
- ・事件があつて、知見が得られて、すごい技術でここまで復旧させた遺産のような雰囲気  
で検証できるようなものを、「街場や駅につくる」べき。
- ・後世に伝えるという部分では、「金田一川流域のところ」に展示とか学習できる  
ところがあれば、現場に行きたいときに行ける。
- ・地元FMを通してPRできる。

#### 【今後の取組内容】

- ・県によるわかりやすいデータベースの作成
- ・学習施設等の事業主体、設置場所等の検討（多くの人が参画する仕組みをつくること）

### 3 跡地利用策について

跡地利用策については、本ワーキングや二戸市民等とのフォーラムにおいて、活発に意見交換等されています。

【ワーキング、フォーラム（アンケート含む）で出された主な意見】

※フォーラム開催結果：別添資料2（p.9～11）参照

フォーラムにおけるアンケート結果（以下「アンケート結果」という。）：別添資料3（p.12～19）参照

#### ●アンケート回答者の属性

- ・性別：男性 約70%、女性 約30%
- ・年代別：50代以上が全体の約80%で、20代以下のアンケート回答者がいない。
- ・職業別：「無職・その他」が全体の約60%で、会社員、公務員が続く。

#### ●主な意見

##### 1 森林

ブナの森などの自然公園にする。

##### 2 漆の植林

・二戸地域は漆の産地なので、気候的に現場に漆が植えられる状況であれば、ブナに並んで漆を植えることも考えられる。

（現場の生育条件が悪いのではないかとの意見もあり。）

・アンケート結果（複数回答あり）では、49件の意見のうち7件（約14%）が漆の植林（漆文化をつくる）との意見でした。（2番目に多い意見）

##### 3 一面の花畑

菜の花、芝桜、ひまわり、綿花などを植える。（アンケート結果：9件（約18%）で最も多い意見でした。）

##### 4 イベントの実施

ロックフェスティバルなどの開催（アンケート結果：6件（約12%））

##### 5 エネルギー利用

・風力発電や太陽光発電に使う。

（空地は花畑など市民が利用するとの併用案もあり。）

・現場で育てた菜の花からBDFをつくる。

##### 6 建築物等の建設

・維持費が多額にかかる建物や公園はならない。

・現場にモニュメントをつくっても誰も見ない。

##### 7 青森県との連携

青森県の部分を含めて現場をワンセットで考えてはどうか。(スキー場など)

#### 8 その他の意見

- ・草地、そば・雑穀の畑
- ・地場産業や地域住民が参加でき、その活動が長く続くこと
- ・PPP、PFIを活用したリサイクル産業の団地

#### 【今後の取組内容】

引き続き幅広い世代の二戸市民等から跡地利用に係るアイデアを募集するとともに、出されたアイデアの実施可能性などを検討し、跡地利用を具体化させていく必要があります。



## 4 今後のワーキングの取組みについて

これまでの取組みの結果、次のとおり課題があり、さらにこれらの課題等について検討していく必要があります。

### 【課題】

- ・ 教訓を伝える取組みについては、誰が、どこで、どのように教訓を伝えていくか
- ・ 跡地利用策については、引き続き多くのアイデアを募り、どのように跡地利用を具体化させていくか。
- ・ 教訓を伝える取組みや跡地利用策について、20代以下の若い世代からの意見が少ない。

また、アンケート結果（詳細別添資料3参照（p.12～19））では、29件の意見（複数回答あり）のうち7件（約24%）で、当該事案に係る跡地利用の進捗がわかるような取組みが必要との意見が出されています。

以上を踏まえ、本ワーキングを平成28年度以降も継続し、課題への対応や二戸市民等への情報提供をしていきたいと考えています。

### 【平成28年度以降のワーキングの取組みの方向性】

- 1 データベース（県作成）について、その内容が市民にわかりやすく、事案について網羅されたものであるかなどの視点で検討していくこと
- 2 学習施設等について、その事業主体、設置場所等について検討していくこと
- 3 跡地利用策について引き続き多くのアイデアを募り、出されたアイデアの実施可能性などを検討し、具体的な跡地利用方法のほか、その事業主体、運営費の確保策等について検討していくこと
- 4 以上の取組みについては、幅広い世代の二戸市民の意見を聴きながら進めていくこと